1月
2020年
150号

地域共創・未来共創の大学へ

広報 沖縄大學

発行
沖縄大学経営企画室
〒902-8521 沖縄県那覇市字国場555
☎ 098(832)2910
http://www.okinawa-u.ac.jp

表紙デザインは国際コミュニケーション学科 比嘉康太さんの作品です。

2020年 年頭あいさつ

学長挨拶

盛口 満

私の好きな作家に、飯嶋和一さんという方がいます。寡作の作家なので、いつも新作を待ちわびているのですが、第一作目を除き、二作目以降は、江戸時代を舞台とした時代小説を発表しています。時代小説と言えば、戦国武将や剣客、場合によっては奉行など、「つわもの」たちの物語と相場が決まっていますが、飯嶋さんの小説の主人公は、どちらかと言えば侍は「わるもの」であり、彼らに被圧される庶民の側で苦闘する相撲取りや医者や、少し外れた位置に属する商人や職人であったりします（最新作は、侍社会からはじき出された侍の話でしたが）。何かのインタビューで読んだ覚えがあるのですが、飯嶋さんが今と異なった時代を舞台にして小説を書くのは、そのほうが自由に描けるからだという思いがあるそうです。つまり、時代小説という形はとっていますが、語られているのは今の話だと私は思っています。歴史という過去の事実を基にしながらも、現実の人々そのものではなく、こうありえたかもしれない人々の姿がえがかれた本を読むことで、私は勇気のようなものをもらえる気がしています。

また、先日は、『ちむぐりさ』というノンフィクションの映画の試写会にいってきました。この映画は、那覇市内にある珊瑚舎スコーレというフリースクールに進学した高校生が主人公の物語です。その彼女の眼と、彼女の書いた文章を軸にして、今の沖縄が抱えている問題がいくつも浮き彫りにされていきます（2月以降に、桜坂劇場で公開予定となっていますので、ぜひ、いろいろな方に見てもらいたいと思います）。彼女は映画の最後のほうで、一つの箴言を紹介しています。それは、自分がなすことで世の中を変えることは難しい。でも、それをなすことは、世の中によって自分が変えられないようにするためだ……というガンジーの言葉です。この言葉にも、勇気のようなものをもらえた気がします。

時代という大きな流れの勢いが増すばかりと思える昨今です。あらたな年を迎えるにあたって、頭に浮かんだ本と映画のことを紹介させてもらいました。

理事長挨拶

佐喜真 實

明けましておめでとうございます。

皆様におかれましては、子年の2020年を大きな希望をもって、迎えられたことと、お慶び申し上げます。

沖縄大学は、「常に新しいことにチャレンジする」の掛け声に相応しく、毎年教職員が協働して大学革新の取り組みを行っております。

昨年は健康栄養学部が創設され、管理栄養士を目指す多くの学生が本学の門をくぐりました。今年も希望を胸に抱いた学生が入学してくる予定です。四学年の学生が揃う2022年が待ち遠しい限りです。

本年は、伝統ある法経学部の学部名が新しくなり、内外共に「経法商学部・経法商学科」の名前が響き渡る年になるかと思います。名前だけでなく、法律、経済、経営という社会組織の枠組みを支えている基本的かつ重要な学問が学び易くなります。既にスタートしています法律行政コース、経済経営コース、地域社会コースの3コース制が、新たな学部名のもと、さらに充実することが期待されています。

沖縄県の大学進学率は、昨年、初めて40.2%と大台を超えました。本学は、創設当初から沖縄の発展に必要な有為な人材の育成に取り組んできましたが、引き続き、進学を志す学生にとって魅力ある受け皿となるよう、全学を上げて取り組んでいるところです。

「夢創造・夢実現」の大学、これが私の目指すところです。昨年の教員採用試験合格者はこれまでにない46名となり、大きく躍進しました。福祉、国際コミュニケーションを学ぶ学生も高い目的意識をもって夢の実現に頑張っています。ぜひとも多くの学生が、本学で学ぶことで夢をかなえて意気揚々と飛び立ってほしい、目標が漠然としている場合は大学の中にある様々な知見に触れることで、確固たる目標を見出してチャレンジしてほしいと思います。

本学は国場の地に根をはり、県都那覇市に立地する個性豊かな大学です。大学の持つ、研究、人材育成の力を活かして、地域とのきずなを深め、今後さらに学生が大きく飛躍できる大学にするために教職員と共に、奮闘することをお誓い申し上げて、年頭のご挨拶といたします。

『教職の沖大』！

2019年度沖縄県教員採用試験

現役合格者19名！
卒業生も含めると46名合格！
過去最高合格者数！

沖縄大学の教採対策講座について

今年度も沖縄県教員候補者選考試験の合格発表があり、現役19名、過卒生27名が合格し、過去最高の合格者を輩出することができました。ここ数年合格者数は好調を維持しており特に現役合格者数については年々増加しています。

学校関係者から「沖大ではどのような教採対策をしていますか？」と聞かれたりします。ここ数年の合格者増加はどのような取組をしているのか、気になるようです。今回は沖大の教採対策、学生の取組を少し紹介したいと思います。

毎年3年次後期から本格的に対策講座をスタートしますが、対策講座といっても最初の1～3ヶ月間は勉強方法を身につけるための期間として自主学習の時間がほとんどです。各学科教職担当の先生方がアドバイスし自分にあった勉強方法を身につけていきます。

勉強方法が身についてきた年明け1月から教職教養科目の講座を全15回（約3ヶ月間）外部講師を招いて実施します。週に2回のペースで朝9時から1コマ実施し講座終了後には振り返りの時間として配付された資料を用いて自主学習を行います。この時期になると学生は毎日10～13時間は勉強するようになっています。

4月に入ると自主学習と並行して毎週試験を実施します。試験は教職教養科目や専門教科を教職担当の先生方が作成した問題や業者に依頼した試験を実施します。毎週試験を実施することで試験慣れし落ち着いて7月の本番（一次試験）に臨むことができるというわけです。

一次試験が終わると翌日には二次対策講座のオリエンテーションを実施し講座がスタートします。二次対策講座は学生が1日中（朝8時～夜11時まで）自主学習できる教室を準備し教職担当の先生方が空いている時間に出向いて論文・面接・模擬授業等の指導を行います。実技系（マット運動、水泳、武道、音楽等）については、外部講師に依頼することもありますが、その場合は日時を調整し講座の時間に各学生が参加します。学生は約1ヶ月間、仲間と一緒に教採対策に取り組みます。

このように沖大での教採対策は3年次後期から4年次前期終了まで約1年を通して取り組みます。学生が目標に向かって一生懸命に取り組む姿勢と、教職の先生方による熱心な指導があり、教職支援センターがその環境（使用教室の予約、講座の調整等）を整えることで結果に結びついていると思っています。

すでに来年度の採用試験にむけてスタートしています。学生からは日曜日、祝祭日にも自主学習するための教室使用申請がありました。来年もご協力いただいている皆さまに良い報告ができることを期待しています。

教職支援センター　事務長　池村　貴志

教員採用試験を終えて

こども文化学科
4年次
名嘉 愛和
（那覇高校出身）

平成31年度沖縄県公立学校教員候補者選考試験で、今年も去年同様19名が現役合格をすることができました。こんなに沢山の合格者を出せたのは、こども文化学科の先生をはじめ、教職支援センターなど大学のサポートが充実していたからです。本当にありがとうございました。

昨年度も19名の合格者がでて、プレッシャーが大きくなる中、先輩方の後を追うように10月ごろから少しずつ試験勉強に取り組みました。最初の頃は勉強する習慣を付けるため一日1時間、2時間と勉強の量を増やしていきました。集中力が続かない時もあり、遊びたいけど勉強しなきゃという葛藤と闘いながら過ごしていました。本格的に勉強に力が入ったのは年が明けた頃です。7月の一次試験に向けて勉強の計画を立てながら何月までにここまでは終わらすという目標を持ち、一日10時間机に向かい続けました。模試があるたびに、点数が上がって喜ぶ人もいれば、全然伸びず悩む人もいて、みんな毎日苦しみながら勉強してきたと思います。無事一次試験が終わり、二次試験の対策もすぐに始まりました。一次試験の結果がわからない中でみんな不安と戦いながら毎日対策を続けました。一次試験より対策期間が短い中、論文、音楽（ピアノ、リコーダー）、体育（マット、水泳）、模擬授業、面接練習とみんなで励まし合いながら乗り越えてきました。二次試験期間中も上手くいかなくて泣いた人もいました。それでもお互い声を掛け合い、高め合うことができたのは、この沖縄大学で共に4年間を過ごしてきた仲間だったからだと思います。また、一緒に対策をした過卒生の力も大きかったです。実際に現場での経験があるため、現場の話を聞きながら面接練習の時にアドバイスを貰ったりしました。現場での経験談を聞いていると、合格して来年は自分たちが教壇に立つんだという気持ちを高めてくれました。

現役生、過卒生と一緒に対策をしてきた仲間と合格できたこと、本当に嬉しく思います。

苦しかった教員採用試験を乗り越えてきた仲間と共に、私たちは4月から小学校教員として働きます。試験に受かったからゴールではなく、大学4年間の講義を通して学んだことを現場で生かし、一人一人がまた次の目標に向かって成長していけたらいいなと思っています。

沖大生、就職内定報告続々！
次号紹介します！

法経学科

この印刷機で印字したものです。

法経学科は新たな試みとして、沖縄県中小企業家同友会と協力して中小企業のお仕事を体験できるブースを出展していました。今話題のドローンを操縦できるブース、昭和初期まで利用されていた活版印刷という版画のように手動で丁寧に印刷するものや3Dプリンタ、教育現場でも使われているテーブル型マルチタッチパネルを使った電子ボードゲームで遊べるコーナーなど様々な企業の仕事を体験することができました。

60TH ANNIVERSARY OKINAWA UNIVERSITY FES 2019

60周年目を迎えた沖大祭！今回は学生広報スタッフとして人文学部国際コミュニケーション学科2年の新垣志織さんに沖大祭の様子を取材してもらいました。

国際コミュニケーション学科

国際コミュニケーション学科3年でアーティストの「Kota」（p12に詳しく紹介）さんが絵の展示会を行っていました。そこでは「ポイ捨てした者たちへ、ケリを付けに行こう。アートという武器で。」をテーマにしたアート展「Seeker」で披露した、タバコの吸殻と自身の「Soft cream」を掛け合わせた作品も展示されていました。「Kota」さんの今後の活躍に乞うご期待です！

福祉文化学科

福祉文化学科ではフリーマーケットや反射能力を測るゲーム、輪投げ、箱の中身はなんだゲームなど、小さい子でも遊べるブースがたくさんありました。ゲームは遊べば遊ぶほどポイントが溜まり、このポイントは駄菓子やおもちゃと交換できるので、大人も子どもも年齢問わず一緒に楽しめる場となっていました。

こども文化学科

こども文化学科では毎年恒例となっている『沖大附属小中学校』を開催しました。2・3年次の学生らが先生となり、地元の小学生や子どもたちとトートバッグにイラストを書いて世界に一つだけのオリジナルトートバッグを作る授業や魚の絵を指定された塗り方で完成させていく授業など、各ゼミ工夫を凝らした授業を展開していました。

健康栄養学部 管理栄養学科

健康栄養学部学生有志メンバーは沖縄で問題となっている生活習慣病や不規則な生活を送っている若い人たちに、食を見直して健康になってほしいと想いを込め考案した「からだ想い弁当」を販売しました。学生たちが献立を作成し、リウボウフーズさんの協力を経て完成したお弁当は彩りもよく栄養たっぷり、美味しさ満点の弁当となっていました。

地域の公衆栄養活動の一環として、山代学部長はじめ皆様のご支援をえて完成しました！

試食会の様子

紙面では紹介できなかった出展もたくさんあります。今回の取材を通して、学生達が地元の方々と楽しそうに話している様子や泡パーティーで大人も子どももはしゃいでいる姿を見て『沖大は地域の方々と支え合って成り立っている学校だな』と改めて感じました。来年も是非多くの沖大生や地域の方に参加いただきたいです。

国際コミュニケーション学科２年
新垣 志織

News & Topics

8/29～9/14 ◆2019年度 父母懇談会

8月29日の久米島会場を皮切りに北部地区、中南部地区で210名の保護者にご参加いただきました。

この懇談会は、学業成績や就職状況、学生生活などについて、ゼミ担当教員や職員と個別に相談していただき、保護者の皆様と連携を密にしながらきめ細かな学生支援を行っていけるようにと毎年開催しています。

9/30 ◆2019年度9月卒業式

沖縄大学9月卒業式が開催されました。学部生18人が卒業を迎え、盛口満学長より出席者ひとりひとりに卒業証書が手渡されました。また式では盛口学長より門出を祝う言葉が卒業生に贈られました。

10/1 ◆辞令交付式（関東学院大学との職員相互派遣人事交流）

関東学院大学（神奈川県横浜市）との第二回目となる職員相互派遣人事交流、今年は桐木健斗さんを学生支援課に迎えました。3ヶ月間、両大学の職員を派遣し、事務職員の能力開発をもって、大学組織の発展に寄与することを目的としています。

10/2 ◆「学問と社会」ゲスト講師にORANGE RANGEのYOHさん

「学問と社会」の講義において、ORANGE RANGEのベーシスト・YOHさんをゲストティーチャーとしてお招きし講演いただきました。登壇したYOHさんは、幼い頃の家庭環境や父となった今想う家族についてのこと、バンド活動、そして東日本大震災の支援活動に触れ、これまでの人生で感じた様々な想いを語ってくれました。

7/31 ◆奨学金授与式

今年度は、企業、宮古・八重山地区有志会、同窓会支部有志の皆様から973万円のご寄付を賜り、29名の学生に寄付者のお名前を冠した奨学金を授与することができました。冠奨学金は、経済的な修学環境を改善し、学業成就、将来の地域社会への還元を目的に、沖縄大学後援会の協力の下、2001年に創設されました。創設当初より、県内企業の皆様、個人の皆様の心あたたまるご支援を頂きながら、これまでに331名の学生に支給されています。

8/3 ◆新旧理事長慰労激励会

長濱正弘前理事長在任中のご活躍を讃え、激務をねぎらうとともに、佐喜真實新理事長への激励を兼ねた会が、開催されました。当日は80名を越える大学関係者が集い、これまでの長濱前理事長のご活躍を振り返りながら、新理事長のもと、更なる大学の飛躍に向け語り合う時間が共有できました。また会では長濱前理事長の三線も披露され、和やかな催しとなりました。

8/8 ◆社会福祉士・精神保健福祉士国家試験激励会

2018年度に国家試験を合格した卒業生を招待しての「社会福祉士・精神保健福祉士　国家試験激励会」が開催されました。

激励会の前半には、国家試験合格者に対する表彰状及びお祝い金が、棚原勝也沖縄大学同窓会会長から授与されました。この表彰状及びお祝い金は、沖縄大学同窓会の皆様からこれまでに多くの福祉文化学科の卒業生に支給されてきました。2018年度は、12名の合格者にお祝い金が授与されました。その後、国家試験に合格した卒業生（8名参加）から、国家試験合格に向けての勉強法や心構えを細かく伝えてもらいました。

News & Topics

11/10 ◆こどもの国で木の実の授業

こども文化学科盛口ゼミの３年次が沖縄こどもの国で授業を行いました。テーマは「木の実教室」、木の実の特徴を知って、モノづくりなどを楽しみました。

こどもの国での授業は今回で２回目となる盛口ゼミ。昨年、はじめて実施した学生の授業が参加者やこどもの国スタッフの方より高評価を得ての今回の開催となりました。松の実やいろいろな木の実を使っての工夫を凝らした授業に、子どもたちも興味津々でした。

11/19 ◆OKIDAI THE 職人倶楽部『FC琉球、沖縄と共にJ1へ！』三上昴社長

沖縄で活躍する人のビジネスヒストリーを伺い、人生100年時代を生き抜く教養や術を身につけるきっかけにと企画している「OKIDAI THE 職人倶楽部」講演会がスタートしました。第一回目の講師は、FC琉球社長の三上昴さんをお招きしました。大手外資系金融会社からフットボールチームの社長へと転身した三上さんのキャリアの話に学生や参加者は興味深く聞き入っていました。後半はサッカーそして沖縄への想い、沖縄の秘めた可能性についても語られました。最後には、「世界を変えたい」という熱い想いが大事だと、学生たちへメッセージが送られました。

10/28 ◆日本語教員養成課程修了式

10月28日、日本語教員養成課程の修了式が行われ、修了生に修了証が授与されました。今年度の修了者は法経学科１名、国際コミュニケーション学科３名、こども文化学科３名、科目等履修生１名となっています。

10/8～22 ◆学P2019 沖縄リーグ

学長へ活動の終了報告（12/2）

県内７大学がアイディアとチームワークで商品開発をして、販売数等を競いあう「学P2019沖縄リーグ」。

沖縄県内のファミリーマートで販売する商品の開発から販売促進までを体験できる実戦型のインターンシップで、今回で13回目を迎えます。今年は本学からは管理栄養学科10人の学生がインターンシップに臨みました。

沖縄大学の学生が開発した商品『あっ！うむさん』は敢闘賞を受賞しました。

11/29 ◆「外国語チャンプルーフェスタ 2019」

楽しみながら語学の運用力アップに繋げる機会になればと国際コミュニケーション学科を中心に実施されている企画「外国語チャンプルーフェスタ」が開催されました。「チャンプルー」には英語、中国語、フランス語、ベトナム語などいろいろな言語が混じり合っているという意味と、スピーチや寸劇、歌などいろいろなパフォーマンスがあるという意味がこめられています。７組がパフォーマンスをし、下記の３組が上位入賞しました。

１位 寸劇「抜萝卜」田中明美（中国語スピーチⅡ受講の科目等履修生）
２位 Korean Speech:「翻訳の壁」城間颯太（国コム２年）
３位 English song: “Skyscraper” 新垣委子（国コム１年）

10/28 ◆ボランティア協力学生へ感謝状

那覇市中央公民館が地域連携事業の一環で実施した、夏休み期間中（8月8日～16日）の朝のラジオ体操にボランティアで協力した本学学生に感謝状が贈られました。表彰されたのは福祉文化学科健康スポーツ福祉専攻の学生有志でつくる「okiスポ」のメンバーと国際コミュニケーション学科の学生の合計16名です。

上間小学校にて実施されたこの企画には、地域の園児や児童、住民が参加し、毎回７～８名の学生がボランティアとして協力しました。学生は、２時間のプログラムを日替わりで企画し、ラジオ体操後には、夏休みの宿題や勉強する時間を設けたり、鬼ごっこや紙飛行機作り、英語ゲームなどのレクリエーションを行うなどして、子どもたちからも大好評でした。

研究のひろば

中小企業のための会計ルールの必要性

日本の企業総数の 99.7 パーセントを占める中小企業は、産業の基盤であり、地域の経済を支える存在です。しかし、中小企業の中で、相当数の企業は経理体制を十分に整えていないのが現状です。中小企業庁の調査結果によれば、経理財務担当の人数が「1 人以下」と答えた中小企業は、7 割近くを占めています。また、経理財務担当者の中で、簿記や税理士、または公認会計士資格を保有する人の割合は 50 パーセントしかありません。その理由は、中小企業の経営者は、会計や経理に関する専門的知識を有する従業員を雇用するのにコストがかかり、その必要性もないという認識があったからです。

かつては企業会計制度に関する研究も規模の大きい上場企業を中心に展開されてきました。非上場の中小企業は、大企業のように、法律にしたがって、企業の財政状態や経営成績を株主や債権者などの企業外部の利害関係者に報告する義務がないため、外部報告にかかわる問題を議論することはなかったと考えられます。

しかし、近年、中小企業においても会計を活用して、企業経営を改善する効果が認められ、さらに、中小企業会計の基盤強化を通じて、企業活動の活性化を図ることの必要性が認識されるようになってきました。このような背景の下で、中小企業のための会計ルールが作成されました。

では、なぜ、大企業とは異なる中小企業向け会計ルールを作る必要があるでしょうか。その理由は、大企業と中小企業の企業属性が違うからです。たとえば、大企業では、会計担当者が複数人いるのに対して、中小企業では、それが 1 人以下の場合が多いです。また、中小企業の会計実務は、大企業と比べて、比較的に簡単であり、財務情報の利用者も、銀行などの債権者や取引先に限られています。このような中小企業の特徴に応じて、会計ルールの導入に関する事務負担を軽減し、より多くの中小企業が採用しやすい会計ルールが必要となっています。

私は、こうした中小企業の会計のあり方について研究を行っています。

法経学部 法経学科 講師
朱　愷雯

わが ゼミナール

人文学部 国際コミュニケーション学科 講師
天久 大輔

英語教育を学び自己の目指すキャリア発見へ向けて

多くの学生に聞かれることは、「先生のゼミでは英語を学習するのですか」の質問です。私は「英語を学習する上で大切な英語教育について学習します」と伝えます。少し戸惑い、難しそうだなという表情をする学生もいます。

私のゼミでは、英語教育を指導者の視点、学習者の視点から深く考えていくのが特徴です。例えば、大学入試における民間試験の英語の導入については、「話す活動」を重視し、4 技能統合型の授業で、コミュニカティブな指導をこれまで同様に重視する必要があると学生は主張します。しかし、英語学習は、「読む力」が何よりも大前提であると伝える学生もいます。喧嘩はしませんが、学生たちは、個々の意見をゼミにおいて共有し、学びに繋げています。

私のゼミ生の興味・関心は様々で、必ずしも教員を志している学生だけではありません。4 年次に交換留学で長期留学を希望し、英語を学びに行くゼミ生もいます。将来、英語教育産業、具体的には英語教育に関わる本を主に扱う出版関係の仕事に携わりたい。また、幼児期の子どもに対するこれからの英語指導を行うにはどのような指導方法が求められているか追及したい。さらには、児童を対象とした英語スクールを運営したいなど、学生はこれまでの自己の英語学習の経験を踏まえて、今後の様々な目標を見出していきます。このように、学生がこれから社会でどのように貢献したいかを知ることは、私の学びにも繋がります。

英語教育が小学校から教科化され、教育現場での英語指導の舵取りをする教師の資質能力について今何が求められているのかなど、日本の英語教育は大きなシフトチェンジの時を迎えようとしています。これまで以上に、小中高大の繋がりを密にし、協働しながら児童・生徒・学生を育成する時でもあります。私のゼミの学生は、実際に高等学校などでの授業観察や、現職の英語教諭の方々とお話しする機会を頂くことで、教育現場に対する理解や関心を深めています。

リレーエッセイ第17回

ホームページリニューアル裏話

経営企画室　兼島 徹

現在私は沖大のホームページのリニューアルに関する業務を担当している。今のホームページが構築されてから6年以上経過し、構造が複雑化して利用者が欲しい情報をすぐに探せない、スマホ仕様になっていない、などの課題があり、新たなものに作り替える必要がでてきたからである。

当初は「今風のデザインに格好良く作り替えればいいかな～」くらいの感じだったのだが、マルチメディア教育研究センターの儀間さんに「兼島さん！リニューアルコンセプトはしっかり作ってください！」と釘を刺された上に、本まで渡され、この業務に臨むにあたっての私の軽い考えが瞬時に崩れた。「次世代Webサイト構築ワークフロー」といかにも難しそうな本のタイトルに一瞬たじろいだが、一応先輩なので、動揺を悟られないように何とかその場を切り抜けた。

『Webサイトは、ユーザの問題解決のツールであり、サービス提供の場。Webサイトで具体的にユーザに何を約束できるのかブランドプロミスとして明示することが大事。ブランド構築は、ブランドプロミスを確定させ、ビジョンが明確に伝わる必要がある。そのためには「伝わる表現」「伝わる言葉」で訴求しなければならない…』この本では、ブランディングにおけるWebサイトの役割について、わかりやすく記述されていた。そして、読み終える頃には「沖縄大学を魅力あるブランドにするために、ホームページを有効かつ重要なツールと位置づけてリニューアルしよう!!」と方向性も固まり、私は別人のように生まれ変わり、儀間さんの言葉に動揺したことも忘れ、すっかりやる気になっていた。

その熱が冷めない数日のうちに、NHKで「芸人先生」という番組をみたのだが、これがまたよかった。ポテトチップスを製造・販売する大手菓子メーカーの湖池屋の社員が生徒役、お笑い芸人の爆笑問題が先生役で「ちゃんと上手に褒めていますか？講座」と題し、共感を誘うプレゼンのコツを伝授する内容であった。

社員の「自社の商品の魅力をうまく伝えられない」という悩みに対し、「お笑いで一番大事なのは、共感してもらうこと。お客さんが引いていく時は共感できない時。自分たちが面白いと思ったものでも、説明がうまくいかないと共感までたどり着けないことがある」と爆笑問題の太田。商品の魅力について「共感してもらうこと」が大事ということである。

また、マーケティングの専門家の先生から「IEバランスが大事」との解説。人は理屈ではなく感情で動くことから、I…情報（Information）、E…感情（Emotion）のバランスが重要とのこと。例えば、ジャパネットたかたが一眼レフカメラを販売するときの伝え方。

「お子様だけを撮らないでください。ご両親の姿も必ず撮ってください。そうすれば思い出に残って、どんなに愛されていたかが大きくなってから伝わりますよね！」

機能やスペックなどの商品の説明だけでは動かなかった消費者の心が、感情を入れることで爆発的に売れる。

なるほど、そうか！と「本学におけるブランディングにおいては、ユーザの『感情を動かし、共感を得る』ことが重要である」との文言をホームページリニューアルコンセプトとして取り入れることにした。

新たなホームページは2020年8月に公開予定である。沖大のブランディングにつながるツールとして機能するものを作りたい。

長寿県復活を目指して②

沖縄県の健康長寿復活に必要なものは？

健康栄養学部　学部長　山代 寛

臨床医としてタバコやアルコールをやめられずに健康を損ない寿命を縮めた多くの患者さんを看取ってきました。病気になって死ぬことがわかっているのに、なぜ、体によくない生活習慣を変えられないのでしょうか？沖縄の健康長寿を阻むものとしてとくに問題になっているアルコールを例にとれば、大量のお酒を長期にわたって飲み続けることで依存症となり、アルコール摂取が社会生活をしていく上での優先順位のトップになって、健全な社会生活を過ごすことなど、どうでもよくなってしまうのです。ニコチンや麻薬などの薬物、ギャンブルやゲームでも同様なことが起こります。また、睡眠不足や過食、肥満、生活習慣病の背後にも依存症の存在が指摘されています。

依存症に陥らないで、より良く生きることができることが沖縄県の健康長寿復活の鍵ではないかと考えますが、依存症の大元の原因としての生きづらさ、満たされなさにどう対処していけばいいのでしょう。

WHO憲章では、その前文の中で「健康」について「病気でないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態にあること」と定義しています。それに加えて霊的（スピリチュアル）にも満たされていることも健康の定義に加えようという提案がなされています。

来年11月に沖縄大学で日本スピリチュアル・ケア学会が開催されます。沖縄大学で学ぶ学生さんにもぜひこの学会に参加していただき、より良く生きるために何が必要なのか？生きづらさを感じている人たちに私達は何ができるのか？ともに考える機会となればうれしいです。

広報誌創刊から40年…

あの人はいま

沖縄大学広報誌は 1979 年 4 月 20 日に創刊号が発行され、今号で 150 号を迎えることになりました。

創刊から 2002 年（90 号）までは「入学おめでとう」と入学者全員の氏名を掲載していた時期もありました。その中から今回は 1992 年に入学された「仲村顕さん」に取材させていただきました。仲村さんは琉球・沖縄の歴史研究家、その活躍は頻繁に新聞等で報道されています。記憶に新しいのが 2019 年 9 月に高知県に所蔵されていた沖縄学の父・伊波普猷の新資料の発見や近代空手の原型を築いた糸洲安恒と推定される写真を見つけ出したことです。現在は沖縄県空手振興課で空手の学問的な研究に尽力されています。

沖縄大学広報
1992年4月22日
法経学部
入学おめでとう

Q 琉球・沖縄の歴史にはまったのはいつ頃ですか

沖縄大学4年次の時に、山門健一先生のゼミに所属していました。その当時はインターネットが普及し始めた頃で、ゼミでホームページを作成しようということになりました。琉球切手を素材にして沖縄を発信しようと先生の提案があったんです。その時に沖縄の歴史について知らない自分に気づかされたんです。那覇高校時代、沖縄の歴史教育の第一人者といえる新城俊昭先生（現在沖縄大学客員教授）から歴史を学んでいたので、少しは身についているのではと自負していたのにも関わらず、沖縄のことを知らない自分に気づいて、沖縄のことを勉強しないといけないなと思ったんです。ただ、その時の沖縄大学には琉球・沖縄史の科目はほとんどなかったので、その後独学で学ぶことになりました。1997年には新城先生が会長を務める「沖縄歴史教育研究会」に所属し、歴史の勉強にはまっていきました。自分の先祖について調べたり、偉人の眠るお墓を巡ったり、人物史の面白さと共に重要さを感じていったわけです。

琉球国独自の歴史や文化はうちなーんちゅである以上知るべきことだと思います。現代の沖縄を取り巻く諸問題のうらには歴史的な背景があるので、それらを知らずして問題に立ち向かうのは良くないと考えます。

Q 沖縄大学に進学した理由は―

（笑）恥ずかしながら正直なところを言うと、家から近いという理由で沖縄大学への進学を決めました。推薦入試を受けましたが、その頃は沖縄大学の入学試験倍率はとても高かったと覚えています。積極的な理由に欠けていましたが、入学できました。どこの大学に入っても勉強するのは自分次第という思いはあったので、大学入学後はとにかく講義をたくさん履修しました。卒業するまでに246単位を取得しました。朝から晩まで大学にいて講義やサークル活動に没頭する日々でした。

空手ガイド育成ワークショップの講師も務めている

Q 沖大に望むこと―・後輩となる学生へひとこと―

沖大は県内の大学のなかでも先陣をきって取り組んできたことがたくさんあります。沖大の歴史は沖縄の復帰史と並行して語られるものでもありますので、沖大そのものの歴史を学ぶ講義を大事にしてほしいと思います。沖大は画期的なことをやってきていると思うので、それらを語り継ぎ、見直す機会が多くあることを望みます。

Q 今後の夢をお聞かせください

学生時代の宿題をそろそろ提出したいなと思っています。ゼミで取り組んだホームページ作成は未完成で終わったのです。「琉球切手から眺める沖縄」を完成させたいというのは積年の想いです。

仲村 顕 さん

1997 年　3 月　沖縄大学卒業
（2000 年までは教員免許取得のため科目等履修生として在籍）
卒業後は貿易関係会社をへて出版社等に勤務
2012 年　『琉球新報』で連載「眠れる先人たち―墓所にたずねる琉球・沖縄史」（2015年まで全100 回）を執筆
ボリビアへ移住（調査・執筆活動）
2015 年　沖縄空手会館資料室所属
2017 年　沖縄県空手振興課所属

現在は歴史・人物史を軸に研究を進めている仲村さん。それらに空手家も含まれ、学問的に検証ができていない分野のため情報収集に勤しんでいるとのことです。また、行政が東京オリンピックをまえに空手ガイドの育成事業に乗り出していることから関連事業にも従事されています。仲村さんによって紐解かれていく琉球・沖縄の歴史に今後も期待致します。

comment

仲村さんとは、「沖縄空手と学校教育」展の監修の仕事でお会いしました。精力的に沖縄空手関係の資料の収集に励む氏の努力により、高知市民図書館で沖縄空手の大家糸洲安恒の写真が発見されました。すばらしい成果です。

人文学部こども文化学科
梶村 光郎 教授

沖縄空手会館で企画展を開催中です。
（本学こども文化学科梶村光郎教授も監修）

『空手を伝え、広める！
～近代の空手教師たち～』

2020 年 3 月 24 日まで開催
沖縄空手と学校教育について
最新の資料等が展示されています。

沖大の魅力に迫る

沖大散策 vol.1

沖大キャンパスには、その当時、話題となった貴重なものが数多くあります。さまざまな人の想いや工夫がカタチになっている場所やモノについて不定期連載で紹介していこうと思います。今回は１号館の彫刻についてです。

『１号館建物に組み込まれた彫刻の数々知っていますか』

これらは県出身の彫刻家・能勢孝二郎さんの作品です。

能勢さんは１号館の彫刻作成後、学生会館２（現在の本館建設時に解体）にあったグリーンカフェの看板も手掛けられたそうです（残念ながら今、残ってはいません）。またグリーンカフェのテーブルは奥様の作品で、現在は本館１階のテラスに設置されています。

１号館が建設されたのが今から34年前。学生数増加に対応し講堂的機能を備えた教室の設置等、新時代の沖大の幕開けをとの願いが込められ、１号館は建設されました。能勢孝二郎さんは旧本館ビルに設置されていた沖大市民ギャラリーの第１回目に彫刻展を開催し、その縁から１号館への作品提供の依頼を受けたそうです。そして能勢さんの作風の中でもとてもユニークな手法が１号館の彫刻に組み込まれることになりました。

能勢さんにお話しを伺いました。

Q 作品のコンセプトについて

イメージや意味はないんです（笑）。あの頃はまだ若く、体力もありましたから、とにかく創りたい！という気持ちが強かったように思います。これは、そのような想いと身体が連動して生まれた作品です。「好きにつくっていいよ」という沖大側からの意向がありがたかったですね。完成後には自分自身の作品の幅が広がり、その後はシュガーホールなどに作品を提供していくことになりました。

沖大の作品のように建築物に彫刻するのは、当時は初めての方法で、建築中の足場を利用して作業をしたんです。懐かしいですね。

【１号館のモニュメントについて】

おもしろさを狙ったもの。平面的な図形（円と三角）と、立体的な図形（球と四角錘）とが組みあわされているのですが、レリーフでは平面図形と立体図形とがいわば逆転されていて、平面図形（円と三角）が立体的にまた、立体図形（球と四角錘）が平面的に（山吹色の線の部分）、造形されているんです。逆転された平面図形と立体図形とが調和した造形そのものに、おもしろさをもたせてあげています。（１９８５年１月発刊の広報誌より能勢さんのコメント）

【階段付近のブロックレリーフ】

これは両手を組んだような彫刻ですね。

【１号館側面の円形レリーフ】

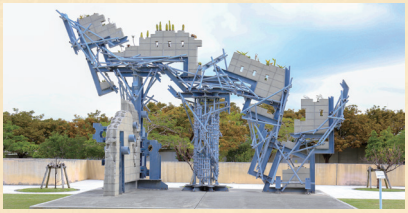
間隔が違うことでスピード感等を出したんです。進化し続ける沖大をイメージしたんじゃないかと思います。

Q 沖大について

沖大は変化し続けていますね。良い方向に。今後も期待しています。

Q 今後・夢について

24時間彫刻家でありたいと思っています。たくさんイメージは湧いていて、今後も夢を形に実現させていきたいです。



『沖縄県立博物館・美術館　展示作品』
『作品名：CONCRETE AND STEEL　制作年：2007年』

能勢 孝二郎さん

沖縄出身（両親は奄美出身）/ 多摩美術大学卒業

幼少の頃より、中城城や首里城の城壁の石積みの造形に心を奪われ、その魅力にとりつかれ彫刻家の道をすすむ。

シュガーホール（佐敷）や県立美術館・博物館等に作品を展示・提供している。

SPECIAL INTERVIEW

今号の表紙を飾ってくれたのは国際コミュニケーション学科３年の Kota（比嘉康太）さんの作品です。Kota さんは 2019 年 11 月には沖縄銀行本店で「Seeker」ごみのポイ捨てにアートで抗議しようという展示会に出展したり、沖大祭でもアート展を開催するなど、精力的にアーティスト活動をスタートさせています。これまでは空手一筋の体育会系男子だった Kota さんですが 2019 年３月に膝の手術を受け、空手の練習に変えて取り組みはじめたのが『絵』でした。そんな Kota さんにお話を伺いました。

Q 絵を描くようになったのはいつ頃からですか？

本格的には 2019 年の９月頃です。現在は空手の練習ができない時間に絵を描いて、インスタグラムに投稿して評価してもらって、アーティスト仲間が増えていっています。でも絵は小さい頃から好きで、小学生のときには、那覇市新都心のコミュニティバスに３ヶ月間、絵がラッピングされたこともあります。

Q 沖縄大学に進学を決めたのはどうしてですか？

空手です。小さい頃から空手が好きで、高校も空手で有名な浦添高校へ進み、沖大でも空手をしたいと推薦で入学しました。勉強は苦手なのですが語学を身に着けたい、特に中国語をと思って今は頑張っています。アーティスト活動をするうえでも中国や台湾を視野にいれているので英語と中国語は大学時代に習得したいと、勉強も頑張っています。

Q 学園祭や沖縄銀行でのアート展への出展等、急速に活動の幅を広げていますがー

今は絵を描くのがとても楽しいですし、多くのアーティストさんたちとの交流で次の企画等が決まっていっている状況です。展示会などは来場いただいた方と直にお話させていただき、「かわいい」「すごい」と絵を評価してもらえると嬉しいですし、実際に触れ合えるのは大事で、制作活動の励みにもなっています。

Q ソフトクリームと自由の女神を掛け合わせたデザインにこだわっているのはどうしてですか

将来的にニューヨークに行きアーティスト活動をしたいという想いがあり、自由の女神で作品をつくりたいと思ったことがきっかけです。それにソフトクリームを乗せてみたら面白いかなと思ったら好きなモチーフになりました。一時期はこだわって描いていましたが、最近は新しいモチーフも描いています。

Q 今後の活動について

年末は奥間ビーチで年越しライブペイントのイベントを行う予定です（取材日時 12 月初旬）。それと現在、県内量販店さんとのコラボ企画も進んでいます。来年には商品化される予定です。

Q 今後の夢について

世界で活躍できるアーティストになりたいです。もちろん、空手も続けていきます。絵と空手、どちらも大好きなんです。世界で大きな賞を取り、展覧会をすることが今の夢です。